

豪華客船が教える致死率の真実

ジェレミー・ファウスト
（ハーバード大学医科大学院保健政策・公衆衛生部門講師）

ケーススタディー ダイヤモンド・プリンセス号の感染ブレイクがあまり出す新型コロナウイルスの本当の危険度

新

新型コロナウイルスが世界中でパニックを引き起こしている。まるで1918年に数千万人が命を落としたスペイン風邪の再来のような騒ぎだ。確かに、現在報じられているCOVID-19（2019年型コロナウイルス感染症）の致死率は2〜3%で、スペイン風邪に近い水準だから、不安に駆られるのは無理もない。だが最終的にこの数字はもっと低いことが明らかになるだろう。米国立衛生研究所（NIH）と米疾病対策センター（CDC）が言及した1%という致死率さえも、このウイルスの威力を過大評価している恐れがある。

新型コロナウイルスの発生初期に、推定致死率が過度に高く報じられるのはよくあることだ。2009年に流行したH1N1型インフルエンザは当初、最終的な致死率1・28%の10倍近い数字が取り沙汰された。

新型コロナウイルスの感染者が湖北省武漢で爆発的に増えたとき、致死率は4%超とされていた。やがて湖北省の他の地域に感染が広がると、致死率は2%に、中国全体に広がると0・2〜0・4%に低下した。無症状者や軽症患者も検査対象に含められるようになること、より現実的な数字が明らかになってきた。

WHO（世界保健機関）は最近の報告書で、世界的な致死率を3・4%と予想以上に高く示したが、パニックに陥る必要はない。最終的には、この数字が1%を大幅に下回ることを示唆する、極めて直接的かつ説得力のある証拠が存在する。それは豪華クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の感染データだ。

語弊を恐れずに言うと、隔離されたクルーズ船は、ウイルスの性質を研究するには絶好の実験室だ。何しろ、通常はコントロールでき

ない多くの条件がそろっている。ダイヤモンド・プリンセスの場合、乗客・乗員3711人のうち、乗船時に新型コロナウイルスに感染していたのはたった1人で、それ以外は基本的に旅ができるほど健康で、限られた場所（船内）でウイルスにさらされた。

中国からは恐ろしい数字が発表されていたが、そのうち何人が別の病気を持っていたかは分からない。いったい何人が命に関わる別の病気で既に入院していて、そこで新型コロナウイルスに感染したのか。健康だったのに、このウイルスに感染して、重症化したのは何人なのか。

本当の致死率は0・85%？

一般的な環境では、こうした情報を知ることができない。だから正確な致死率をはじき出すことが難しい。中国の年間死亡者数は900万人。つまり新型コロナウイルス

がなくても、1日に約2万5000人、この2カ月なら約150万人が死亡していた計算になる。このうちかなりの割合が「たばこ病」とも言われる慢性閉塞性肺疾患（COPD）や下気道感染症、そして肺痛による死だ。その症状は、COVID-19の重い症状と区別がつかない。

中国のCOVID-19による死亡者は、長年の喫煙習慣によりCOPDを発症するのと同じ年齢層で急増した（中国では成人男性の半分が喫煙者だ）。中国の感染拡大のピークとなった1〜2月初旬、1日約25人のペースで死者が出たが、そのほとんどがCOPDが幅広く見られる高齢者だった。

1日2万5000人の死亡者に占める25人のうち、新型コロナウイルスだけが原因で死亡した人と、合併症が原因で死亡した人を見分けるのは容易ではない。しかし重要なのは、新型コロナウイルスによって、



巨大な実験室 ダイヤモンド・プリンセス号は横浜港到着後、2週間の検疫期間に(2月16日)

通常より死者数がどのくらい増えたのかだ。

そこで重要な視点をもたらしてくれるのが、ダイヤモンド・プリンセス号のデータだ。

乗員・乗客3711人のうち、陽性と判定されたのは705人以上(船内の環境とウイルスの感染

力を考えると驚くほど少ない)。

その半分以上は無症状だった。そして死者は6人。つまり致死率は0・85%だ。患者の死因を見極めるのが非常に難しい中国などとは異なり、この6人は超過死亡(新型コロナウイルスがなければ生じなかつたはずの死亡)だと考える

ことができる。

何より重要なのは、この6人が全員70歳以上だったことだろう。70歳未満の乗客は1人も死んでいない。中国の統計が正しいなら、ダイヤモンド・プリンセスでも70歳未満の乗客4人が死んでいなければならぬ。だが、そうはならなかった。ダイヤモンド・プリンセスのデータは、70歳以上の致死率は中国の統計の8分の1(1・1%)、80歳以上の致死率は3分の1(4・9%)であることを示唆している。

もちろんこれらの数字も懸念すべきものではある。だが、ダイヤモンド・プリンセスで陽性とされた人は、高ウイルス量に繰り返しさらされた可能性が高い。また、一部の治療は遅れた。つまり、きちんとした手順が守られていれば、ダイヤモンド・プリンセスでの致死率はもっと低かつた可能性があるのだ。

学校より老人施設を守れ

これらの事実を合わせて考えると、新型コロナウイルス感染症は、ほとんどの若者にとっては比較的良性の病気である一方で、一部の生活習慣病を抱える高齢者にとつ

ては、深刻な病気である可能性を示している。

中国では10歳以下の感染者数百人のうち死者はゼロで、健康な成人感染者(高齢者以外)の致死率は0・2〜0・4%だ。おそらく検査を受けていない大量の無症状感染者を含めれば、もっと低くなるだろう。

若者の致死率が低いことを考えると、私たちがいま集中して資源を投じるべきなのは、健康な人への感染を防ぐことではなく、重症化するリスクが高い人たちを守ることだ。対象となるのは、70歳以上の全人口と、この種のウイルスに対してもともと高いリスクを持つ人たちだ。つまり重点的に対策を講じるべきなのは、学校ではなく老人ホーム、飛行機ではなく病院だ。

幸いこのウイルスの感染力や潜伏期間、そしてハイリスク者の人物像や居場所は分かっている。食料やマスクを買い込む健康な人たちは、不安を的外れなエネルギーに変えているにすぎない。本当にリスクにさらされている人たちを守るのに役立たないなら、その行動は貴重な資源の無駄遣いになりかねない。